

好意の伝達としての「告白」方略分析

関陽子*・李相沃**

In this study, we determined what the more favored means of communication for “confession” strategies used by both men and women. Then, it is in our best interest to analyze the linguistic structures of the communication strategies discussed. As a result of the study, the confession expressions that were revealed were: “Please go out with me”, to express the emotions of liking someone through “I like you”, and lastly “I want us to be together”. Instead of just “Please go out with me”, other expressions such as “I like you” and “I want to be with you” were also confirmed in this study.

In the study, there were two most popular methods of confession which was “expressing/confessing the feeling of liking the person” or “to go out on a date together”. Despite those two most popular methods, there were also eleven other types of ways of expressing one’s functional expressions.

Key words : language strategy, confession of one’s love, compliance-gaining strategy
(言語方略、好意の告白、承諾獲得戦略)

1. はじめに

「告白」は「秘密にしていたことや心の中で思っていたことを、ありのまま打ち明けること。また、その言葉。」¹⁾とされている。そして「告白」後、「告白」の対象者が「告白」を受け入れてくれることを期待する気持ちだけでなく、「告白」することで自分自身が秘密を持つことな

* 漢陽大学校 日本語・文化学科 副教授

** 漢陽大学校 日本語・文化学科 講師

1) 松村明 監修(2012)「告白」『大辞泉(第2版)』小学館国語辞典編集部、p.1280.

どのストレスから解放されたいという欲求、つまり目的を持っている。また、「告白」は相手に何かの行為を求めているのではなく、受容を期待している点や、人間関係の変化を目的としている点、変化だけでなく自分自身の心理的安定を目的とする場合もあるなど「謝罪表現」に類似し、自分が相手に何らかの行為を要求している反面、その行為を実行に移すかどうかの決定権を相手に委ねている点では「依頼表現」に類似した機能も持っている。このように「告白」は「謝罪」や「依頼」のような一つの表現行為であると考えられるが、これまで「告白」は心理学研究が中心となっており、言語学的研究は少ない。しかし、「告白」はお互いの人間関係構築や維持のために必要な表現行為であり、重要性も高いと考える。また、「告白」は秘密にしていたことなどを告げるだけでなく、好意の伝達としての「告白」など、人生の転機ともなりうる重要な表現行為であり、グローバル化に伴った国際結婚の増加や第二言語教育の立場からも、特に研究の対象となるべきであると考えられる。

本研究は「告白」のなかの男女間の好意の伝達としての「告白」に焦点を当て、「告白」がどのような語彙を使用し、どのような言語機能表現を使用しているかを分析し、男女間の好意の伝達としての「告白」の言語的方略を考察するものである。

2. 先行研究

コミュニケーションにおける方略能力についてCanale and Swain (1980)は「action to compensate for breakdown in communication due to performance variables or to insufficient competence (コミュニケーション方法の諸問題や不十分な伝達能力によるコミュニケーション崩壊を補い、修復に導くこと)」と定義した²⁾。また、

2) Canale, M. and M. Swain (1980) "Theoretical Bases of Communicative Approaches to Second Language Teaching and Testing," *Applied Linguistics*.1(1), p.30.

談話研究においては、ザトラウスキー(1993)が「発話機能」に基づく「勧誘」の談話の構造分析を行い、どのような発話を行うことで「勧誘」行為がなされているか³⁾という、いわゆる発話構造を分析し、勧誘の言語方略について述べている。このようにコミュニケーションにおける方略の捉え方は研究者によって違いが見られるが、今回の研究は、まず「告白」を言語的構造から分析することとした。

男女間の好意の伝達としての「告白」について、栗林(2000)は男女間の「告白」は「恋愛関係の形成を目的として、特定の相手に自分の好意を伝達する行為である」⁴⁾としている。また、栗林は男性は「付き合ってください」のように交際要請を、女性は「好きです」という表現を多く使用しているなど、恋愛において「告白」は性別によって違いがあることが確認されたとしている。

樋口・磯部・戸塚・深田(2001)は、「告白」を承諾獲得方略⁵⁾の一つとし、告白分析にあたり「付き合ってください」のような依頼表現を使用しているもののみを「告白」の分析対象としている⁶⁾。また、「告白」の方略を24のカテゴリーに分け、その中で最も代表的な19種類の表現を「言語的方略」として分類し、それらを方略の持つ意味を中心に「単純型」「懇願型」「理屈型」と分類している。樋口・磯部・戸塚・深田(2001)は「告白」を承諾獲得方略の一つとし、分析対象の告白表現を「付き合ってください」が含まれているものに制限した。しかし、「告白」が「秘密にしていたことや心の中で思っていたことを、ありのまま打ち明けること。また、その言葉。」⁷⁾であるならば、「告白」するこ

3) ザトラウスキー・ポリー(1993)「勧誘のストラテジーの考察」『日本語の談話の構造分析』日本語研究叢書(5)、くろしお出版、pp.67-172.

4) 栗林克匡(2000)「恋愛における告白の状況に関する研究」『日本社会心理学会第41回 大会発表論文集』日本社会心理学会、pp.396-397.

5) 深田博巳(1998)『インターパーソナル・コミュニケーション—対人コミュニケーションの心理学—』北大路書房、pp.1-94.

深田(1998)は、承諾獲得方略を「個人が自分の望む行動を他者から引き出す際に用いる言語的影響手段のこと」としている。

6) 樋口匡貴・磯部真弓・戸塚唯氏・深田博巳(2001)「恋愛関係の進展に及ぼす告白の言語的方略の効果」『広島大学心理学研究』第1号、広島大学大学院教育研究科心理学講座、pp.53-68.

7) 松村明 監修(2012)「告白」『大辞泉(第2版)』小学館国語辞典編集部、p.1280.

とは承諾獲得方略だけでなく、「告白」することだけを目的とした方略、いわゆる自己開示のみを目的とする方略も存在すると考えられる。つまり、樋口・磯部・戸塚・深田(2001)が「付き合ってください」という交際申し込みの表現のみを調査の対象とすることは、「告白」の中の承諾獲得方略に属する部分のみを分析の対象としたということであり、「告白」の全体像を把握することは難しいと思われる。

また、これまでの「告白」の言語的先行研究における栗林(2000)や樋口・磯部・戸塚・深田(2001)も被設問者の「告白」の経験についての設問調査を行っているが、過去の経験をもとにした調査は主観的に歪曲化されやすい点やどれだけ正確に状況を把握し、記憶しているかについて疑問が持たれる。そこで、本研究では「告白」の言語行為のみ調査対象とし、被験者が現時点でイメージしている「告白」のことばかり「告白」の一般的な言語方略を分析しようとするものである。

3. 研究方法

談話研究では実際の会話や、できるだけ実際の会話に近い状況での会話を研究対象とする。しかし、男女間の好意の「告白」は実際の使用場面が限定されるだけでなく、主に「告白」するものとされるもののみでの会話が行われることが自然であり、その場での第3者の介入が難しい。また、人間関係や状況、また告白者の心理状況など「告白」に影響を与える要素が多いため、ロールプレイなどによる疑似会話によるデータの抽出も難しい。そのため、まず告白方略の調査方法を検討するために先行研究⁸⁾を参考に事前調査を行い、「告白」の方略を分析する方法について以下のように検討した。

8) 栗林克匡(2002)「恋愛における告白の状況と個人差(シャイネス・社会的スキル)に関する研究」『北星学園大学社会福祉学部北星論集』第39号、北星学園大学社会福祉学部、pp.11-19.

3.1 データ収集について

1) 事前調査

事前調査⁹⁾は調査対象者自身の「告白」の経験を問う設問形式で2回行った。事前調査は1回目は韓国人大学院生7人、2回目は大学1年生25人、2年生3人、3年生17人4年生5人を対象とした。設問内容は、「告白」の相手との告白当時の年齢差・交際の期間・関係・告白の時間・言語以外の方略等を尋ねるなど、先行研究を元にした設問と、自分の考えた状況に関係のない個人の持つ「告白」のイメージとして、「理想的な告白のことば」を記入する設問を加えた。しかし、設問の内容が多いため、後半の設問に対する回答が空欄であったり誤記入が多く見られたり、「告白」の主体がだれであるかなどの質問や、「告白」する場合の回答と「告白」された場合の区別がなされず、回答が混在するなどの問題が生じた。

2) 本調査

上記の事前調査の結果をもとに、本調査では自らの経験について記入する設問ではなく、被設問者がイメージする「理想的な告白のことば」を、自分が「告白する場合」と「告白される場合」の二つに絞って設問を行う方法を選択した。また、記入の際、「告白」の状況を創造したり、対象や背景を設定してしまったりする時間を最小限に押さえるために、設問担当者が直接設問用紙を配布し、その場で記入してもらう1対1の対面式調査¹⁰⁾を行った。

調査対象は18才から26才までの大学生130人で、年齢は22才以下が119人とその大部分を占めている。

告白する場合の有効回答は男女合計123人(男性52人、女性71人)、告白される場合の有効回答は男女合計126人(男性51人、女性

9) 漢陽大学で日本語を専攻する学生50人を対象とし、2回における事前調査を行った。

10) 早稲田大学と東海大学の学生を対象とした。

75人)である。

ついに告白!あなたなら.....

☆ あなたが考える 理想の「告白の言葉」はなんですか?

1. あなたが 告白するなら

2. 告白されるなら

韓国 漢陽大学 日本語・文化学科 言語ストラテジー研究会 調査

性別: 男 / 女 年齢:

ご協力ありがとうございました

〈図 1〉本調査のアンケート用紙

3.2 分析方法について

設問結果はエクセルに入力し、それらを研究者2名が先行研究¹¹⁾を参考に、「告白」のことばの中で使用されている表現の意味や役割、機能などから方略表現を分類し、使用頻度の分析を行った。

表現方略のそれぞれの表現の頻度は延べ数で分析した。また、告白するとき最も適切だと思う告白表現を「J1」、告白されるとき最も聞きたい告白表現を「J2」とした。

11) 樋口匡貴・磯部真弓・戸塚唯氏・深田博巳(2001)『恋愛関係の進展に及ぼす告白の言語的方策の効果』『広島大学心理学研究』第1号、広島大学大学院教育研究科心理学講座、pp.53-68.

4. 分析結果

4.1 表現方略要素

「告白」には「好きです」「付き合ってください」など、「告白」する際に最も多く使用される表現や、説明や依頼などの言語機能表現、また副詞や助動詞など「告白」に意味を付加する表現や呼称など相手との関係を表わす語彙などに特徴が見られた。樋口・磯部・戸塚・深田(2001)は「付き合ってください」が入っているもののみを「告白」の分析対象としているが、本調査の結果必ずしも「付き合ってください」を使用しない告白表現も多く見られたため、回答者が「告白」として記入したものをすべてを調査の対象とした。

調査の結果、「好き」と「付き合う」の使用はJ1の全有効回答者数123件中106件(全体の86.2%)で、J2では全有効回答者数126件中105件(全体の83.3%)で使用されるなど、男女間の好意の「告白」にはこれらの表現が「告白」の象徴的表現となっていた。そのため、この二つの表現を特定表現とし、その他の表現とは別に分類、分析を行った。また、談話分析に使用される機能分類を参考にした「告白」の言語表現分類と、意味を付加・強調したり、関係を意味づける語彙表現など、それぞれの持つ機能や意味によって、特定表現、機能表現、語彙の三つのカテゴリーに分類した。機能表現は「告白」のなかに見られた全ての表現を取り上げ、その機能の特徴別に11の機能に下位分類を行った。語彙表現も、その意味によって期間・程度・関係・呼称の四つに下位分類を行った。

4.1.1 特定表現

「好きです」「愛している」などの好意表現は、栗林(2000)が述べるところの男女間の好意の伝達の「告白」の定義である「恋愛関係の形成を目的として、特定の相手に自分の好意を伝達する行為である」の中の「好意を伝達する」機能を持っている。また、「付き合う」などの表現が含まれる交際申請表現は、栗林(2000)の「告白」の定義の中の「恋愛

関係の形成」という「告白」の目的を示す表現であり、好意表現、交際申請表現共に「告白」において使用頻度が高い。そのため、これらを「告白」における「特定表現」と分類し、分析を行った。

① 好意表現

好意表現は好意表現単独の使用と、交際申請表現との併用が見られた。好意表現の単独使用と交際申請表現との併用を合わせた好意表現の使用は、J1の有効回答件数123件中85件(69.1%)であった。また、そのなかで好意表現の単独使用は123件中57件(46.3%)であった。J2の場合、併用使用は86件(68.3%)、単独使用は59件(46.8%)であった。

例 1) 私は○○のことが好きだよ。(J1-048)

例 2) ずっと前から好きでした。(J2-040)

② 交際申請表現

交際申請表現も好意表現と同様、両者の併用と単独使用が見られた。J1の場合、交際申請表現と好意表現の併用は有効回答件数123件中49件(39.8%)、単独使用は21件(17.1%)であった。J2の場合、併用使用が46件(36.5%)、単独使用が19件(15.1%)となった。

例 3) 付き合ってください。(J2-047)

例 4) お前のことが好きだから、付き合おう。(J1-101)

このように、好意表現と交際申請表現は使用頻度からも「告白」のキーワードであるといえる。また、好意表現の単独使用がJ1で全体の46.3%、J2で全体の46.8%であったのに比べ、交際申請表現の単独使用はJ1で17.1%、J2で15.1%と低いことから、「告白」においては「付き合ってください」などの交際申請表現より、好意表現が重視されていることが確認された。

4.1.2 機能表現

先行研究では「告白」の方略分類のカテゴリーが言語表現だけでなく努力やメリット、または作戦など言語表現機能以外の要素も同時に分類されていた。本研究では、言語表現に焦点を当て分類することを目的とし、表現の意味、機能、役割等の特徴から以下11の機能表現に分類した。

① 命令

「～になれ」「～しろ」など、被告白者に告白者との関係や告白者に対する態度を強要することで、告白者の被告白者に対する好意を伝えようとする表現を命令表現とした。

この命令表現はJ1では使用が見られなかった。J2では全体の有効回答件数126件のなかで2件(1.6%)の使用が見られるなど、「告白」においてはあまり使用されない表現であると言える。

例 5) 好きだ! 俺についてこい。(J2-110)

② 限定

「～だけ」「～しかない」などの表現を使用し、「あなたしかいない」など、好意の対象を限定することで好意の対象者の絶対性や重要性を示し、告白者の好意を強調しようという表現を限定表現とした。

限定表現の使用はJ1では1件もなく、J2においても1件(0.8%)のみの使用されていた。

例 6) あなたを世界で二番目に幸せにしてみせます! 付き合ってください。(J1-096)

③ 願望

「～たい」「ほしい」など、願望を意味する表現を使用し、告白者が、「告白」の際に自己が望んでいることや相手に臨むことなどを明示する方略や告白者の願望を被告白者に伝える方略を願望表現とした。

願望表現は、J1では有効回答件数123件中5件(4.1%)が使用され、J2では有効回答件数126件中6件(4.8%)の使用が見られた。

例 7) ○○が好きだから、付き合ってほしい! (J1-045)

例 8) めっちゃ好きだから、ずっと一緒にいたい! (J2-103)

④ 状況説明

告白者の被告白者に対する心理状態や身体状況、また好感を持った理由やどんな点に好感を持ったか、持っているか、「告白」に至る過程や状況などを説明する表現を状況説明表現とした。

状況説明表現はJ1では有効回答件数123件中91件(74%)が使用され、J2では有効回答件数126件中92件(73%)の使用が見られるなど、「告白」において状況を説明する必要性の高さが確認された。

例 9) 前から気になってました。僕と付き合ってください。

(J1-019)

例 10) ずっと前から好きでした。(J2-042)

⑤ 勧誘

「～よう」「～ましょう」など告白者と行動や目的を共有することを前提に告白者の要求を提示する表現を勧誘表現とした。

勧誘表現は、J1では有効回答件数123件中2件(1.6%)が使用され、J2では有効回答件数126件中6件(4.8%)の使用が見られた。

例 11) 付き合おうぜ。(J1-015)

例 12) ずっと一緒にいよ。(J2-036)

⑥ 条件

告白者が被告白者が好意を受け入れた場合得られる利益や特典などを提示し、好意を受け入れることを促す表現を条件表現とした。

条件表現は、J1では有効回答件数123件中3件(2.4%)が使用され、J2では使用が見られなかった。

例 13) 僕と付き合ってください。一生幸せにします。(J1-030)

⑦ 依頼

「～てください」「～してくれる?」「～してくれませんか」などの依頼表現を使用し、告白者の要求を受け入れることを促す方略を依頼表現とした。依頼は勧誘と同じ要求表現であるが、自分が要求する行為を被告白者にのみ行動するよう促すものであり、行為の共有意識は持たない。

依頼表現は、J1では有効回答件数123件中48件(39%)が使用され、J2では有効回答件数126件中45件(36.6%)の使用が見られるなど、機能表現の中では2番目に使用頻度が多い。このことは「告白」が一種の要求表現であることから使用頻度が高いと言えるが、依頼表現よりも状況説明表現の使用頻度が2倍に上るということは、「告白」においては依頼表現も重要であるがそれより状況を説明することが重要な要素になるということが確認された。

例 14) あなたの人生を私にください。(J1-039)

例 15) 俺の彼女になってくれ!(J2-091)

⑧ 提案

「～しませんか」などの表現を使用し、告白者の意向に被告白者が同意するかどうかの意向を尋ねたり、同意を得ようとする方略を提案方略とした。

提案表現は、J1では有効回答件数123件中4件(3.3%)が使用され、J2では有効回答件数126件中3件(2.4%)の使用が見られた。

例 16) 俺に背中を預けてみないか?(J1-042)

例 17) 私の車の助手席の乗ってドライブしませんか。(J2-003)

⑨ 許可要請

「付き合ってもいい?」のように、告白者の希望を述べ、被告白者に実行してもいいかどうか判断を要請することで、好意及び告白者の希

望を伝えようとする表現を許可要請表現とした。

許可要請表現は、J1では有効回答件数123件中6件(4.9%)が使用され、J2では有効回答件数126件中2件(1.6%)の使用が見られた。

例 18) だれよりもあなたのそばにいていいですか? (J1-049)

㊦ 確認

現在の状況を確認し、被告白者にその状況でいいのかどうか確認する表現を確認表現とした。

確認表現は、J1では有効回答件数123件中3件(2.4%)が使用され、J2では有効回答件数126件中2件(1.6%)の使用が見られた。

例 19) 私じゃダメですか? (J1-107)

例 20) あたしのこと好きっしょ? 明日から彼氏ね! (J1-112)

㊦ にごし

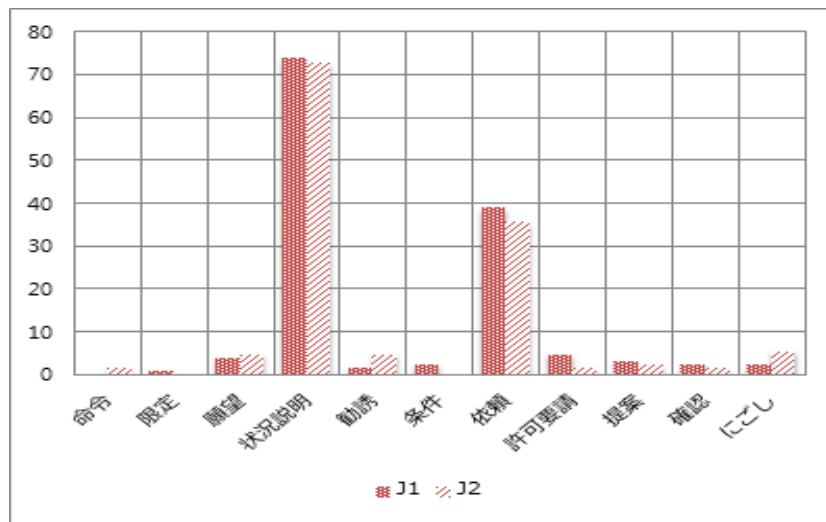
告白者の好意を「～かな」や「～かもしれない」などの表現を使って意思を明確に提示せず、伝えた内容についての被告白者の反応を伺う低姿勢な態度を示すことで好意を伝える表現をにごし表現とした。

にごし表現は、J1では有効回答件数123件中3件(2.4%)が使用され、J2では有効回答件数126件中7件(5.6%)の使用が見られた。

例 21) 好きかもしれない。 (J2-020)

このように、表現方略要素の使用頻度は状況説明の使用が最も多く、次に依頼表現が多く使用され、それらが「告白」の大部分を占めており、説明・依頼表現ともに、J1よりもJ2の使用が少なかった。しかし、勧誘やにごしなどはJ2で多く使用されていた。また、使用の多かった状況説明と依頼の二つの表現は、好意を表現する「好き」は「好きです」「愛しています」のように状況説明と同時に使用されている例が多く、J1の場合86件の回答中84件(97.7%)で使用されて

おり、J2では好意表明87件の回答中81件(93.1%)で使用されていた。依頼表現は「付き合ってください」のように交際要請である「付き合う」という表現と共に使用されることが多く、J1の場合49件の回答中41件(83.7%)が、J2は46件の回答中39件(84.8%)で使用されていた。



〈図 2〉 表現方略要素の使用頻度 (%)

4.1.3 語彙表現

主に「告白」の中で使用することで、意味や関係を強調したり、付加したりする表現を其々の特徴から「時間に関するもの」「程度を強調するもの」「距離感を意味するもの」「相手との関係を明示するもの」の四つが見られた。

① 期間

「ずっと」「前から」「一生」など、時間に関する意味を持つ表現を期間表現とした。

期間表現は、J1では有効回答件数123件中12件(9.8%)が使用さ

れ、J2では有効回答件数126件中19件(15.1%)の使用が見られた。

② 程度

「とても」「すごく」「本当に」などのように、程度を強調する意味を持つ表現を程度表現とした。

程度表現は、J1では有効回答件数123件中10件(8.1%)が使用され、J2では有効回答件数126件中14件(11.1%)の使用が見られた。

③ 距離

「そば」「となり」「一緒に」などのように、両者の心理的位置を述べることで人間関係を確定したり明示したりする表現を距離表現とした。

J1では有効回答件数123件中5件(4.1%)が使用され、J2では有効回答件数126件中7件(5.6%)の使用が見られた。

④ 呼称

相手と自分の関係を明示したり、誰が主張しているのかや誰に対するものなのかを明示する表現で、其々の特徴から「私」のように自分を意味するもの、「君」や「君の瞳」など相手を意味するもの、そして「俺の彼女」や「恋人」などお互いの関係を意味するものなどを呼称表現とし、自分を強調しているものを「1人称」、相手を意味するものを「2人称」、相手との関係を意味するものを関係を確定するものとして「確定名称」とした。

1人称の使用頻度は、J1では有効回答件数123件中16件(13%)が使用され、J2では有効回答件数126件中18件(14.3%)の使用が見られた。

2人称の使用頻度は、J1では有効回答件数123件中20件(16.3%)が使用され、J2では有効回答件数126件中18件(14.3%)の使用が見られた。

確定名称の使用頻度は、J1では有効回答件数123件中2件(1.6%)が使用され、J2では有効回答件数126件中4件(3.2%)の使用が見られた。

4.2 「告白」の表現方略要素使用の男女比較

上記の表現方略要素の使用頻度の男女比較を行い、その特徴の分析を行った。

4.2.1 特定表現使用の男女比較

「交際申請」と「好意表現」は栗林(2000)の先行研究と同様に、男性は「交際申請」を好み、女性は「好意表現」を好むという結果が得られた。

また、男女の違い及びJ1・J2を比較すると、「好意表現」は男性がJ2の使用が多く、女性はJ1で使用頻度が高く、女性は積極的に「好意表現」を使用する傾向にあるが、男性は自ら直接好意を表現するよりは好意の表現をされる方を好む傾向にあるという結果が出た。

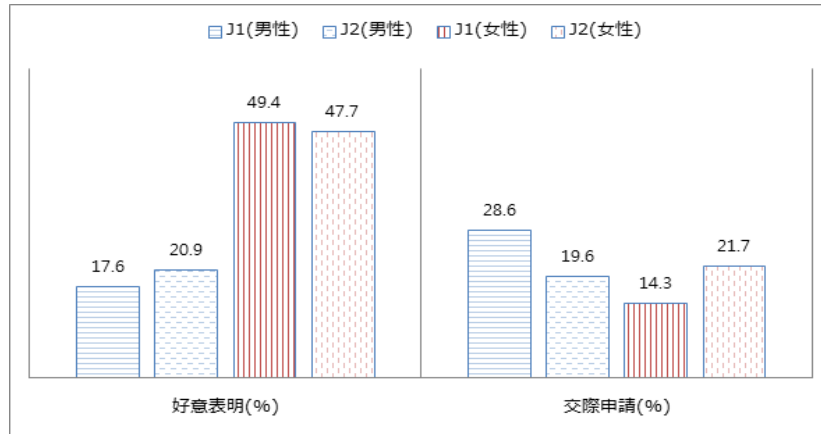
「交際申請」の場合、男性は女性から交際申請されるよりも、自ら交際申請をする傾向にあり、女性の場合、自分からするよりはされたいという意識が強いと考えられる。

〈表 1〉好意表明表現使用の男女差

好意表明	男性		女性	
	回答	%	回答	%
J1(告白したら)	15/85	17.6	42/85	49.4
J2(告白されたら)	18/86	20.9	41/86	47.7

〈表 2〉交際申請表現使用の男女差

交際申請	男性		女性	
	回答	%	回答	%
J1(告白したら)	14/49	28.6	7/49	14.3
J2(告白されたら)	9/46	19.6	10/46	21.7



〈図 3〉 特定表現の使用頻度(男女差(%))

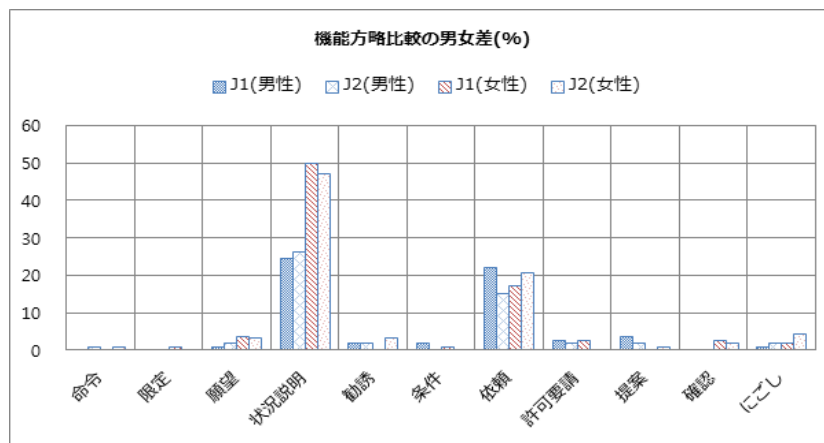
4.2.2 表現方略要素使用の男女比較

男性は勧誘、要請、提案などの表現を使用するなど相手に決定権を与える表現を好む傾向があり、女性の場合は願望や状況説明など感情や意思を明確に伝える表現を多く使用する傾向が見られた。また、提案表現は男性には好まれるが、女性には好まれず、確認表現は女性の使用は見られるが男性の使用が1件も見られないなど、はっきりしてほしい女性心理と、しつこくされたくない男性心理が垣間見られた。しかし、一方でにごし表現が男女共にJ2での使用が多く、特に女性のJ2が最も多く使用しているというように、明確な表現を望みながら、にごし表現を使用するという意外な結果が出ている。これは、にごし表現で気持ちを明確に示さない方略として使用するというよりは、恥じらいや感情の高まりなどの感情を示す方略として捕えられている可能性を示唆している。条件表現を見ると、男女共に自分で条件は出すものの出されるのは好まないという結果が見られた。また、勧誘・依頼・要請・提案など、相手に決定権をゆだねる方略表現は男性の使用が多く、願望・状況説明・確認等、自分自身の感情や要求を明確に提示する方略表現は女性に多かった。このことは「告白」にあたっては男性は告白するものの決定権を相手にゆだねることで責任を回避

する方略を使用する傾向があるということになる。

〈表 3〉表現方略使用の男女差

方略	男性				女性			
	J1		J2		J1		J2	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
命令(M)	0	0	1	0.8	0	0	1	0.8
限定(G)	0	0	0	0	1	0.8	0	0
願望(B)	1	0.8	2	1.6	4	3.3	4	3.2
状況説明(S)	30	24.4	33	26.2	61	49.6	59	46.8
勧誘(U)	2	1.6	2	1.6	0	0	4	3.2
条件(J)	2	1.6	0	0	1	0.8	0	0
依頼(I)	27	22	19	15.1	21	17.1	26	20.6
許可要請(Y)	3	2.4	2	1.6	3	2.4	0	0
提案(T)	4	3.3	2	1.6	0	0	1	0.8
確認(K)	0	0	0	0	3	2.4	2	1.6
にごし(N)	1	0.8	2	1.6	2	1.6	5	4



〈図 4〉表現方略要素の使用頻度(男女差(%))

「好意表明」と「交際申請」表現を共に使用する方略は、J1の場合男性は27件中12件(44.4%)、女性は59件中16件(27.1%)使用しており、J2の場合は男性は29件中10件(34.5%)、女性は58件中17件(29.3%)が使用していた。また、男女の状況説明と依頼の使用頻度を比較すると、女性は好意表現を使用する傾向にあるという栗林(2000)の研究結果を裏付けるだけでなく、女性にとっては交際申請表現を使用しなくても、好意表現だけで「告白」ととらえる傾向が強いなど、好意表現を重視しているということが確認された。

4.2.3 語彙表現使用の男女比較

語彙表現は男女共にお互いの距離に関する表現よりは、期間や程度を強調する表現の使用頻度が高い。また、共にJ1よりJ2の使用が多いことは、期間や程度を強調する表現は自分で表現するよりも表現される方を好むということであり、「告白」の際、被告白者に対し有効な表現方略であるということになる。

距離表現、つまり関係を強調する表現は女性が好むという結果が見られた。特に、男性の場合J1では距離に関する表現を使った例が一つも見られなかった。しかし、J2での使用は女性よりも使用頻度が高かった。このことは男性は、距離を強調する表現に対し敏感であるということが言え、男性に対し、距離の強調表現の使用は、効果的であると言える。

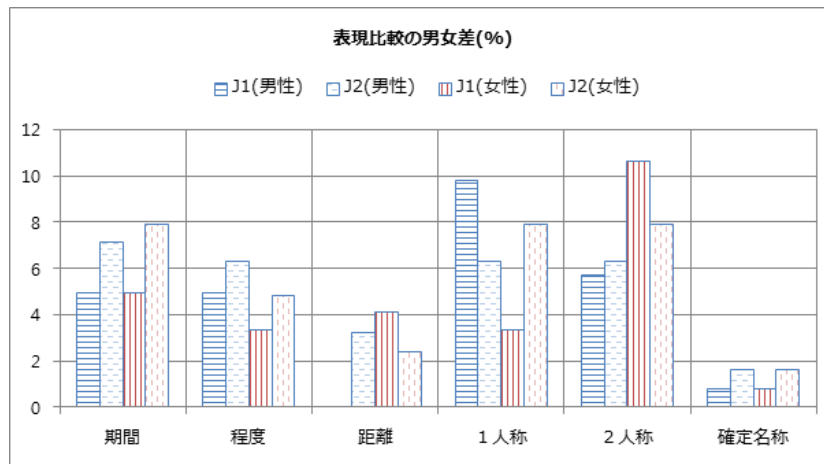
呼称においては男性は1人称を使って告白者を明示す傾向が特に強く見られたのに対し、女性はJ1よりもJ2の頻度が高かった。これは、女性は告白者を明示するのはなるべく避ける傾向にあるが、被告白者は明示してほしいという願望があるということになる。2人称は女性の場合、1人称よりその頻度が高いことから、「告白」をする際、女性は被告白者に焦点を合わせて表現する傾向があると考えられる。また、2人称は男性の場合J1よりもJ2の使用頻度が高く、女性の場合J1がJ2よりも使用頻度が高いなど、男性は被告白者を明示し、女性は明示されたいという傾向が見られた。

確定名称の使用は男女共にJ1よりもJ2に多く見られた。これは、

確定名称は使ってほしいという意識があるということになる。つまり、自分を特別な存在としてみてほしいという要求でないかと考えられる。

〈表 4〉 語彙表現使用の男女差

表現	男性				女性				
	J1		J2		J1		J2		
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
期間	6	4.9	9	7.1	6	4.9	10	7.9	
程度	6	4.9	8	6.3	4	3.3	6	4.8	
距離	0	0	4	3.2	5	4.1	3	2.4	
呼称	1人称	12	9.8	8	6.3	4	3.3	10	7.9
	2人称	7	5.7	8	6.3	13	10.6	10	7.9
	確定名称	1	0.8	2	1.6	1	0.8	2	1.6



〈図 5〉 語彙表現の使用頻度(男女差(%))

5. まとめ

分析の結果、「告白」は主に好意表明表現や交際申請表現が「告白」を代表する表現であることが確認できた。そのなかでも特に好意表明表現を重視する傾向が見られ、好意表明表現のみの「告白」も多く見られるなど、依頼表現を使用しない「告白」があることが確認された。特に女性に好意表明表現の使用が多く、男性は好意表明表現を使用するよりは女性から伝えられることを好む傾向にあった。また、交際申請表現は男性の使用が多く、女性の場合は伝えるよりは男性から伝えられたいという傾向が見られるなど、男性は女性よりも「告白」において関係成立の目的意識が高いという結果が得られた。

機能方略において、最も多く使用されていた方略は状況説明表現である。状況説明表現は女性の使用が男性の2倍近くに上るなど、特に女性が重視する傾向が見られた。状況説明表現の次に使用が多かったのは依頼表現であり、特に男性の使用頻度が高かった。これは、交際申請表現の使用頻度が高いことと一致する。つまり、女性は自分の感情や状況を訴える表現方略や相手の気持ちを確認する表現方略を好み、男性は感情や状況よりも関係重視の傾向にあると言える。これは、男性は関係を強調したり明示する表現方略が女性に対し有効だと考えているが、実際は感情を明示する方略表現の方が有効であるということになる。

強調表現の使用において、期間や程度は男女共に、自分が使用するよりは相手が使用することを望む傾向にあり、男性が使用を好む傾向にある。また、距離を強調する表現は男性の回答では自己の使用は1件も見られなかったにもかかわらず、J2の使用頻度が高く、女性の方が相手との距離感を重視していた。

呼称の表現については、男性は「告白者」を明示する表現方略を使用するなど「告白」の主導権を握ろうとしており、女性も告白者をはっきり明示してほしいという意識はあるが、それと同時に2人称の使用など、女性を中心においた表現、つまり女性を意識していることを明確に示す方略表現に好感を持つということがいえる。

このように「告白」の表現方略を分析することは、「告白」にどのような表現方略が使用されているかだけでなく、どのような表現方略が効

果的であるかを知ることにつながる。今後は調査件数を増やすことでその信憑性を高め、下位分析や表現の組み合わせ、方略構造の分析や、フィードバック調査などを実施し、より明確な表現方略の特徴を明らかにしたい。

参考文献

- 井邑智哉・平林奈津子・深田博巳・樋口匡貴(2010) 承諾獲得方略の使用可能性 - 承諾獲得方略の時系列的組み合わせ - 『広島大学心理学研究』第10号、広島大学大学院教育研究科心理学講座、pp.109-118.
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵(1993) 「依頼表現方略の分析と記述 - 待遇表現教育への応用に向けて -」 『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』早稲田大学日本語研究教育センター、pp.52-69.
- 川口義一・蒲谷宏・坂本恵(2002) 「待遇表現としての「誘い」」 『早稲田大学日本語教育研究』早稲田大学、pp.21-30.
- 栗林克匡(2000) 「恋愛における告白の状況に関する研究」 『日本社会心理学会 第41回大会発表論文集』日本社会心理学会、pp.396-397.
- _____ (2002) 恋愛における告白の状況と個人差(シャイネス・社会的スキル)に関する研究 『北星学園大学社会福祉学部北星論集』第39号、北星学園大学社会福祉学部、pp.11-19.
- _____ (2004) 「恋愛における告白の成否の規定因に関する研究」 『北星学園大学社会福祉学部北星論集』第41号、北星学園大学社会福祉学部、pp.75-83.
- 小島奈々恵・太田麻琴・高木雪子・深田博巳(2006) 「恋愛における告白の成功・失敗の規定因」 『広島大学心理学研究』第6号、広島大学大学院教育研究科心理学講座、pp.71-85.
- 達川奎三(2007) 方略能力研究に関する理論的背景 『広島外国語教育研究』No.10、広島大学外国語教育研究センター、pp.17-33.
- 樋口匡貴・磯部真弓・戸塚唯氏・深田博巳(2001) 恋愛関係の進展に及ぼす告白の言語的方略の効果 『広島大学心理学研究』第1号、広島大学大学院教育研究科心理学講座、pp.53-68.
- 深田博巳(1998) 『インターパーソナル・コミュニケーションー対人コミュニケーションの心理学ー』北大路書房、pp.1-94.
- 松村明 監修(2012) 「告白」 『大辞泉(第2版)』小学館国語辞典編集部、p.1280.
- 目黒秋子(1994) 「謙遜型」断りのストラテジー 『東北大学文学部日本語学論集』第4号、東北大学文学部、pp.99-110.
- ザトラウスキー・ボリー(1993) 「勧誘のストラテジーの考察」 『日本語の談話の構造分析』日本語研究叢書(5)、くろしお出版、pp.67-172.
- Canale, M. and M. Swain(1980) "Theoretical Bases of Communicative Approaches to Second Language Teaching and Testing," *Applied Linguistics*.1(1), p.30.

성 명(한 글) : 세키 요우코

(한 자) : 関陽子

(영 문) : Seki, Yoko

논문영어제목 : Constitutional Strategies of Confessions in Japanese

소 속 : 한양대학교 일본언어·문화학과 부교수

E-mail : sekiyoko@hanyang.ac.kr

성 명(한 글) : 이 상 옥

(한 자) : 李相沃

(영 문) : Lee, Sang-Ok

소 속 : 한양대학교 일본언어·문화학과 강사

E-mail : midori1005@hanyang.ac.kr

투 고 일 : 2013년 6월 30일

심사개시일 : 2013년 7월 5일

심사완료일 : 2013년 7월 28일